



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年6月1日

6月号・第161号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



活動日・朝の体操

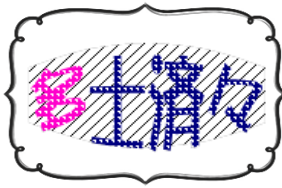
ホームページでは、カラーで見ることができます

Contents

URL <http://www.naranature.com>



多士済々	1	青垣春秋	12
Monthly Repo.ならやま	2	俳句百景	13
里山の今	3・4・5	癒しの散歩道 & ならやま茶論	14
感謝状贈呈式・第14回通常総会	6	Galleryならやま	15
天平祭	7	ならやまプロジェクト	16
新幹事抱負	8	行事案内part1	17
自然教室だより	9	part2・旬菜旬食 & 奈良学クイズ	18
「鳥」シリーズ	10	幹事会報告・編集長退任挨拶	19
やさしい病害虫講座	11	・編集後記	19



野鳥はまかせて
(奈良まほろばソムリエ)
小田久美子 さん

顧問 阿部 和生

華奢で折れてしまいそうな体型の小田さんが、レンジャーとしてフィールドスコープを担ぎ、双眼鏡を手にし、資料を持ちますと「しゃきっ」として「筋金入りの指導員」に変身します。深い知識と鋭い観察眼をお持ちで、日本野鳥の会奈良支部の幹部としてもご活躍です。

姿より鳴き声を聞き分けて野鳥の在り処を見つめます。眼も耳も鋭い感覚です。ツツピー、ツツピー。ツツピ、ツツピ。はシジュウカラ、さえずにピンときて焦点を絞り込む、居たよ！居たよ！そこそこと言われても、双眼鏡を握り締めるばかりで あらぬところを探すのみ。「ジュクジュクジュク」と鳴くこともあるよ、地鳴きよ！といわれても、こちらは眼を白黒、初めての野鳥観察でびっくりしてしまったものです。囀り声は、繁殖期の縄張り宣言や求愛の声であり普段の地鳴きの声とは違うと教えられました。鳥を探す前に声を聞き分けて（聞きなし）野鳥を推測しその習性を基に居場所を見つけ出す。そんな名人技がいつも冴えます。長い研鑽とご努力があり身につけられたのでしょう。

2月ころの冬鳥の観鳥会は、「奈良・人と自然の会・月例研修会」の定番として、小田さんを講師として定着しています。会報誌の「鳥シリーズ」が再開し一味違った構成です。広い見聞を下にときにユーモアも交え取り付きやすく解説されています。トンボ出版から「奈良の野鳥ものがたり」が上梓され、その執筆者のお一人でもある小田さんの真骨頂の発揮場面でしょう。

野鳥観察は、簡単ではありませんね。まして長期にわたる定点・定時観測などは、素人の私からは気が遠くなるほどの忍耐と努力が必要で尻込みです。定点観測なんて、人の気配を消してじっと佇み、眼と耳を総動員し 360 度周囲を見回し記録をとるのです、雨でも雪でも決められた日には出かけるのです。

野鳥の会支部長（当時）の川瀬さんと共に調査されました。そんな大変な作業と知らずに2年間に及ぶ「ならやま」の野鳥観察をお願いし、「ならやまの四季」の野鳥部門を取り纏めていただきました。調査をされた結晶が記載されています。

好奇心旺盛、学ぶことが好き、話すことも大好きという小田さんは「奈良まほろばソムリエ検定」にも初回から挑戦し、難関の「ソムリエ」を獲得しておられます。大変な勉強とご努力をされたことはもちろんですが、そこにはご主人進八郎さまの一方ならぬご支援があったであろうと推察しています。

[美大]で絵画を学ばれていた若い感覚をお持ちのご主人の大きな後押しがあったに違いありません。大変に仲の良いお二人です。近頃は、「奈良ソムリエ会」としての活躍もめざましいと仄聞しています。

身辺ご多忙ですが、自然教室チーム講師としても活動されています。まだ自然教室チームが発足する前から近隣学校へのアプローチをなさっていましたもの。その情熱は今も健在です。

弱点は、夏に弱い、夏を苦手が挙げられます。それゆえにこの時期になると、さらに瘦躯（39キロ?）体力がどこかに吸い取られそうになられ



痛々しいときがあります。新緑の素晴らしい今の季節から初夏の間に体力をつけることにもご努力を！と、一言添えてご活躍を祈ります。

乞われて済生会病院へ寄贈 100号(進八郎画)

Monthly Repo. ならやま

4月23日(木) 活動 晴れ 65名+3名

経団連の助成金事業で行うカシナガ被害木の伐採を基本にした部分伐採予定地区について、ならやま活動に参加している多くの会員に理解を深めてもらうために皆で実地検分を行った。

近畿大学の北川先生がたなご池でバラタナゴの観察を担当する学生2名を連れて来られた。

第5番目のテント倉庫が完成、設置に汗を流されたメンバーに感謝。

里山Gは、新年度の活動方向についてミーティング、5月のイベントの工作材料の準備とコナラ枯死木の伐採。エコファームGは、ナスの植え付け準備、畝面の黒色フィルムのマルチも手馴れたものでスイスイ。

景観Gは、ヒマワリの播種に向け、第5地区、佐保自然の森の栽培予定地の草刈り。花では開花が終わったナノハナを処分し、夏花の植え付けの準備に忙しい。

4月30日(木) 活動 晴れ 67名+4名

県の景観環境局の係長と主査が経団連助成事業の実施予定地を視察。県の森林技術センターの技術者が皆伐試験地を調査され、さらに本年度のカシナガトラップ試験予定について概況の説明。

里山Gは、天平祭に使う竹工作の材料作りの最終調整日となった、また別働隊はタケノコ平近辺の倒木処理。エコファームGは、ナス・シシトウ等の夏野菜の畝作りに忙しい。エンドウが丈高く成長してきたので蔓の誘引作業も欠



かせない。美味しいイチゴの収穫が少々。



景観Gは、第5地区のヒマワリ畑に堆肥まき、ベースキャンプ周辺の除草。ならやま池では水生生物調査を行うが種類、個体数とも少ない。花はキシノウエ花壇・ジャーマンアイリス花壇の除草。

5月7日(木) 活動 晴れ 61名

暑くなってきたのでベースキャンプは緑陰広場へ移動。ならやまプロジェクト担当幹事が交代。

カシナガ被害木が伐採されて日当たりがよくなった里山林内ではピンク色のモチツツジが満開。



池田さんの好意により冷たい味噌汁が提供され、暑さも忘れる昼時であった。数日前にマムシが見つかったとの情報あり、要注意!

里山林のカシナガ枯死木の伐採は3チームに分かれ、効率的に実施された。夏野菜(ナス・シシトウ・ブロッコリー・カリフラワー・トマト・オクラ等)の植え付けが一斉に行われた。エンドウ類も一気に大きくなり、収穫量にも満足。

第5地区、佐保自然の森でヒマワリの播種が完了、夏には黄色の大きな花が見られることだろう。ムラサキハナナを処分し、夏の花の代表選手のマリーゴールドを播種。

5月14日(木) 活動 晴れ後小雨 62名+2名

シニア自然大学校からの実習生2名が参加。

里山Gは、JR横の里山林でコナラ・マツの枯死木を伐採。エコファームGは、サツマイモを定植、2時過ぎから天からの贈り物が届き、うまく根づくことだろう。

景観Gは、BC周辺、彩の森の草刈りを完了。ならやま池では水生生物調査、東池ではギャングのウシガエルを釣り上げようとしたが失敗に終わった。緑陰広場横のアジサイの除草、来週には開花が見られるだろうとのこと。

(木村 裕)

里山グループだより

森 英雄

先月に続いて切り株からの萌芽更新の話です。

平成23年度は世代交替で里山林を守るという方向に向かい始め、また本格的にナラ枯れ調査を始めた時期でした。奈良県森林技術センターさんと私共の狙いが一致し、協働で皆伐・萌芽実験を行う事になり（5か年計画）、南西斜面に20m x 20mの実験区を作り、直径3cm以上の樹木をすべて切り倒しました。

翌年には北向き斜面に第2皆伐区を作りました。その後の萌芽発生状況調査は主に森林技術センター・迫田主任研究員殿が継続して行っています。

★現在までの調査の結果

- ・コナラは第1区では約7割、第2区では4割の萌芽発生が見られました。

- ・第1区では林床が明るくなり、コナラ、アカマツ・アカメガシワ、クスノキなどの多数の実生もありました（既に鬱蒼とした状態です）。
←（皆伐直後）



- ・第2区でササ・ススキ等が多く発生しました。などがわかりました。

萌芽更新は有力な手段とはいえ、萌芽しない確率も高く、健康な里山の維持の為には、さらに植樹等も必須になってきます。里山グループでは、今後、伐採・整理作業の他に植樹・資源活用（薪・



しいたけ等）・里山保全とますます多忙になっていきます。こんな時こそ多くの人の力を結集し、かつ“安全第一”が何より重要になると思います。

←（第1区：現在）



エコファームだより

萱野 勉

新緑の野山に萌える今日此の頃、ハ十八夜もすぎ夏野菜の植えつけのよい時期になりました。

★育苗ハウスでの播種から育苗作りが2年目になりますが、今年3月下旬から4月上旬にかけて高温多湿になり育苗が遅れていましたが、育苗ハウスで育てた茄子、ピーマン、唐辛子、南瓜、スイカ、ズッキーニ、オクラ、ゴーヤなど5月7日に植えました。

茄子は（千両60本、庄屋長なす30本、ごちそうなす25本、水なす5本、ジャンボなす60本）植えました。ジャンボなすは初めて植えたのでどんな形や大きさになるのか楽しみです。

★5月14日には、さつまいも（鳴門金時200本、紅はるか100本）枝豆、落花生の播種をします。

水やり、病害虫対策に注意して育てていきたいと思っています。

★6月には、新玉ねぎ、新じゃがいも、にんじくの収穫があります。

出来具合に大きな期待を！！



ピーマンの
植え付け

茄子の植え付け



ならやま花だより

吉村 さつき

木々の若葉が織りなす様はとても美しく清々しい気分になります。草むらでは薄紅色のかわいい花が咲いています。アメリカ原産の帰化植物、アカバナ科の多年草ユウゲショウです。

茎は束生して白色の柔毛が有り、高さは20～40センチ。

葉はやや広い披針形で互生し周りは浅い鋸歯。

花は5～9月に咲き直径1～1.5センチの薄紅色で、花弁は4枚、紅色の筋が入り先は丸く、中心部は黄緑色。雄しべ8本、雌しべの先端は紅色で4つに分かれ十字状になっています。

熟した果実は雨に濡れると開き種が飛び散るそうです。

夕方から開花する事から艶やかな名前が付けられたそうですが、実際には日中にも咲いています。



ユウゲショウ

[草花]アメリカフウロ、ハルジオン、キュウリグサ、ムラサキサギゴケ、キツネノボタン、トウバナ、スズメノテッポウ、シロツメグサ、コメツブツメグサ、レンゲ、オニタビラコ、ユウゲショウ、ハハコグサ、オニノゲシ、ヤブジラミ、ムラサキカタバミ、コバンソウ、ツボミオオバコ、ニワゼキショウ

[木の花]ナワシログミ、モチツツジ、ズミ、ツクバネウツギ、カマツカ、ウルシ、カキノキ、ノイバラ

[水辺の花]ナガバオモダカ、イ、ショウブ、キショウブ

[花壇]デージー、ムラサキハナナ、キンギョソウ、アジサイ、シャガ、シラン、キンセンカ、ジャーマンアイリス、ヤグルマギク、ムラサキツユクサ、アヤメ、イチハツ、ナデシコ、源平小菊、ホタルブクロ、ドイツムギ



里山の今

ペタキン日記 37

羽尻 嵩

4月23日 (木)

近大の北川先生が学生2名と来訪された。今年は4回生の専従がいないので、2名の学生は他の箇所との

掛け持ちになるとのこと。

4月30日 (木)

季節はまだ春なのに夏のような暑さだ。タナゴが幾つかの集団に分れて周遊しているのがよく見える。貝のいるプランターでは産卵行動が始まり、時々反転したオスの体がキラリと光る。

5月7日 (木)

湿地の木道で、これまで破損が少なかった東側でも土台の丸太が腐って破損し、釘が出てきている箇所があり、その補修を川勝さんをお願いした。

3～4月に行ってきた砂・真砂土による池の整備をこの日も午後から行った。また草も繁茂し始め、大きくなってきたザリガニ捕りも始まって忙しくなってきた。

ならやま池の築山でカルガモが抱卵しているのが確認された。昨年より数週間早い抱卵だ。

5月14日 (木)

ならやま池の築山に抱卵しているはずのカルガモがいないので、小島さんに確認してもらおうと、なんと抱卵していた箇所の横の水中に卵6個が落ちていた。朝来た時にアオサギがいたのでアオサギに襲われたのかとも思うが、原因ははっきりしない。3週間後にもう一度産卵するはずなのでそれを期待して待つことにする。



東池では竹本さんがウシガエル捕獲にチャレンジされたが、ウシガエルはこの日は見つからなかった。

ならやま虫だより

菊川年明

◆ミイデラゴミムシ

体長20mmくらいのゴミムシ

(下の写真)である。食性は肉食でミミズや小昆虫などのほか、動物の屍肉も食べる。出現時期は4月～10月、主に夜間に活動し、昼間は物陰に潜んでいるので目につきにくい。サツマイモ掘りの際に、蔓をまくと出てくることがある。

この虫はヘッピームシという俗名を持っている。漢字表記は「屁放り虫」である。敵に攻撃されると尻から高温の臭いガスを噴射する。ガスの悪臭もさることながら、このガスは100度以上の高温というから驚く。物の本によるとこのガスは「過酸化水素とヒドロキノンによって生成した水蒸気とベンゾキノンからなる気体で、瞬時の反応で爆発し、高温になる」のだそうである。この高温ガスは自在に噴射方向も変えられるという。

この虫を棒などでつつくと尻から「ぷっ」という音を発し、黄色みを帯びた霧状物質を噴射する。数回は反復できる。カエルがこの虫をばくりとやると、口内は化学的ダメージのほかに高温ガスの熱で火傷を負うそうである。

人間の場合は火傷には至らないが、やられた指などに褐色の染みがつき、悪臭とともになかなか消えない。これは私も経験済みである。

名前についている「ミイデラ」は滋賀県大津市の有名な三井寺で、この寺の円満院所蔵の鳥羽絵「放屁合戦」に由来するとか。下の写真は落とし穴式トラップにはまったミイデラゴミムシ(中央)である。



パトロール班レポ

守口京子

◆2 コースのルートの一部変更

パトロールのコースは4つあり、

毎週1コースずつ回ると1カ月でならやまの活動領域をだいたいカバーできます。ただ1～3コースは重複していて、コース変更が課題でした。

ならやま自然の森で尾根筋に良い道になりそうな所があり、そこを観察路にできないか検討した結果、2コースを一部変更しこの新しい道を採用することになりました。

こげ茶色の丸太の杭(ポイントポール)の先端に書いてある数字を探しながら進んでください。

①～②は今まで通りですが②から左折し、用水路沿いの彩の森を歩きます。⑤がならやま自然の森への入口です。山の北斜面の尾根筋で、静かで落ち着いた雰囲気のある雑木林です。ただどっちを見ても同じ景色で道に迷いそうです。ならやま観察路と書いた標示板とテープの印を見ながら行ってください。登っていくと、104ピークに到着し、以前通りの2コースに合流します。

因みにこの104ピークという名前は標高104mの山頂という意味で、活動当初はこのような呼び方でいろいろの観察路の各地点を呼んでいました。その後100ピークは赤岳に、113ピークは小羊歯の辻となりました。でもこの104ピークはピークと言いながら、登っても眺めが悪く、なんの変哲もない所で誰もよい名前を思いつかなかったのが104ピークのままでした。



第14回通常総会開催 10年継続会員に感謝状

平成27年5月17日(日)奈良市生涯学習センターにて第14回通常総会が開催された。

八木幹事の開会の辞に始まり、冒頭、出席者42名、委任状提出者84名、計126名の評決参加者数が確認され、会員総数149名の過半数を満たし本総会は成立した旨の宣言がなされた。

ついで藤田会長より平成26年度を振り返り、



ならやまプロジェクト、月例研修会、自然教室への参加者年間延べ人数は4200人を超え、特にならやまプロジ

ェクトでは毎回60人以上の参加者を得て活発な活動が展開され、蕎麦クラブ、歴史文化クラブの活動においても内容の充実と広がりが見られたとの報告がなされた。

財政面ではGGプロジェクトへの参加、森林・山村多面的機能発揮対策交付金、三井物産環境基金助成金等を得て、自然環境保全と自然環境教育の実践に必要な設備や備品等ならやまプロジェクトの活動基盤の整備が出来た。また、皆さま方の努力のおかげで、自主財源で年間活動費の1/3を賄えるまでになってきた。今後とも自主財源の確保と費用の節減に努めていきたい。

今後共「明るく！元気に！楽しく！無理せず！」をモットーにより多くの方々に活動に参加して頂けるよう努めたいとの言葉で結ばれた。

議長選出後、議案の審議に入り、各議案とも審議の結果提案通り承認された。

総会閉会后、臨時幹事会が開かれ今回辞任された3名の幹事に替わり新たな幹事の選任と新たな役職分担が協議され、結果以下の通り報告された。

副会長：鈴木末一 事務局長：辻本信一

その後、新幹事3名の挨拶並びに退任幹事3名内2名の方の挨拶があり、本日の総会を終了した。

(辻本 信一)

尚、10年継続会員として感謝状を授与された6名を代表し、倉田晃様より次の様なお言葉を頂きました。

「10年継続会員の感謝状を受領して」

この度総会場で感謝状をいただき御礼を申し上げます。

居るだけの存在で特に貢献もしていないので面はゆい気がいたします。



私が奈良・人と自然の会に入れていただいたのは平成16年4月のことですが、数年間は名ばかり会員で、滅多に顔も出さない状態でした。最近になってやっと自然観察等に参加しています。

入会当時の活動は例会とアースデイなどのイベント参加が中心だったと思います。

そのうちに柳生での間伐作業が行われ、更にならやまの景観整備事業が始まりました。

参加人員も活動日数もどんどん増え、様変わりの活動状況になりました。ならやまも見違えるようにきれいになっていきました。

こうした努力が評価され、会の名前が少しずつ知られていき、いろいろな表彰を受けるようになったことは喜ばしい限りです。

本当に良い活動をする団体になったなと実感しています。

ただ、このならやまの活動が盛んになればなるほど、殆ど参加していない私としては、申し訳のないような、また、居心地の悪さを感じています。これは仕方のないことですが…

この会の活動規模が大きくなるにつれ、課題もいろいろ出てきていると思います。

組織、資金、人材の確保と育成、ならやまに参加していない会員への対処など様々な課題を片付けながら、ますます発展していくことを願っています。

(倉田 晃)

平城京天平祭 春2015

今年の天平祭はお天気にも恵まれ昨年以上の人出（4.6万人）だったそうです。

当会ブースも連日大入りで、自然工作 374set の提供で1,000人近い方の来場でした。また、遊びに来られた会員さんも見かねてのお手伝いとなり、スタッフは3日間で54人の参加となりました。

「ものづくり広場」には10団体が出店し、風車から立体切り絵の体験まで、20種類のものづくり体験ができる会場でした。



・何を作ろうかな 子どもを連れた親御さんは、会場を一巡りして何に取り組むか思案、子どものしたいものと保護者の思惑が一致しないようで、なかなか取り組めないグループもありました。

今年第1号のお客様は女のお子さん2人を連れたご夫婦でした。お父さんは心配そうにお子さんの製作を見ておられました。



・工作 鯉と吹流しの色付けがポイントですが、ここで子どもさんの個性が発揮されるので、見ている者にとっては非常に興味深いものです。

子どもにぴったり寄り添う保護者の方は、カメラ・ビデオで製作の過程を取り続けていました。

・お土産

ステージ出演のお客さんが、お孫さんのお土産にと5セットの購入、時間がないので完成品のこいのぼりを入念に撮影して帰られました。またステージ出演してくれた韓国の方へのお土産にしたいと完成品の注文もありました。

・どちらが良かったでしょう

完成後、子どもたちに調査をしてみました。「こい

のぼりとブンブンゴマづくりどちらが面白かったですか？」。答えは「こいのぼり」、「ブンブンゴマ」、「どちらも」で、3日間とも「どちらも」が大半でした。作る面白さはこいのぼり、遊ぶ楽しさはブンブンゴマに軍配が上がったようです。

・忘れ物

「この杖、お客さんの忘れ物ですね」「きっとお孫さんへのお土産づくりに気を良くされたお客さんの忘れ物ですよ」、「ものづくりの力はすごいですね」などワイワイ。「ちょっと待って、私の杖よ！帰りは杖を突かないと歩けないほど疲れるのだから…」（本当にあれほど頑張れば、そうなるでしょう。納得！）「失礼しました」

・来年も出展できますか

さて来年は何で参加することになるのでしょうか。

年々出展準備も大

変になってきて活動にも支障をきたし始めていますが、出来れば来年もこいのぼりに挑戦してほしいものです。すでにニューバージョンのこいのぼり案も用意されています。

ものづくりから子供たちが毎年離れていくように思えます。いや、ものづくりをしなかった親たちが遠ざかっているのかもしれないね。

準備の皆さん有難

うございました。今年はい念な工程管理と品質管理が出来ておりスムーズに仕上がりました。会場の

スタッフの皆さん有難うございました。子ども達に作ってもらい、喜ぶ顔を見ると私達も嬉しくなり、また子ども達の「ありがとう」の声に疲れも吹き飛びました。

今年も大忙しでスタッフの皆さんは行列も周りの出し物、食べ物市場、中央ステージの催しもの等ほとんど見られなかったでしょう。来年は余裕で楽しみましょう。



(塩本勝也)

新 風

「皆様のお力を借りて！」

萱野 勉

奈良・人の自然の会に入会して6年目になります。

里山での活動を通して、自然とのふれあいだけではなく、人とのふれあいなどたくさん勉強させて頂きました。

鍬しか持つことが出来なかった私に「幹事に！」と言うお声が掛かり、「私には無理ですよ！」とお断りしたのですが、鈴木さんの熱心なお誘いを受け、引き受ける事にしました。

まだまだ、勉強不足の所など多々あると思いますが、皆様の力をお借りして、ならやまエコファームを共に楽しく無理せずに活動を行きたいと思っています。

未熟な私ですが、これからもご指導の方よろしくお願い致します。



「新幹事になって！」

小島 武雄

ならやまの活動は3年目になります、最初シニアの実習生で参加した時に、冬の山に入り、急斜面の下にある短い丸太を、肩に担いで何度も運び上げをしました、大変な作業で寒い日でしたが、汗まみれになった事を思い出します。意味も判らずやりましたが、それが萌芽実験地の皆伐地で玉切りされた樹木の搬出だったのです、山の中でも清々しい気持ちになりました。

自宅は枚方市、府営山田池公園ボランティアで毎週水曜日に春夏の花壇作りもしています、平城山には、JRにうまく乗り継ぎ1時間でやって来られるので、この会に参加しました。最初は主に

景観グループで草刈り担当でした、昨年身体の不具合で残念ながら、草刈り機を持てなくなり、今はビオトープ池の水生生物調査や整備、パトロール班で観察路の維持整備、希少植物保護活動に参加しています。ならやまの景観整備活動は、どれも大切な事ばかりです、これらに関われるのが嬉しく、また自分も、ならやまの自然に毎回癒されています。今回、新幹事になることで、微力ながら皆様の活動のお手伝いをさせていただきます、よろしくお願いいたします。



「全員参加で会報誌を作ろう！」

坂東 久平

3年前の2月に入会し、活動日では里山Gでお世話になって来ました。入会当初から編集チームに入れて頂き、ホームページの担当と会報誌作成のお手伝いをして参りました。

今回広報担当の幹事を拝命し、更に鈴木編集長の後任として会報誌編集の責任者を務めることになり、責任の重大さを痛感しています。

当会はボランティアの活動ではありますが、150名の大所帯となり全員が一堂に会する機会も殆ど無く、会の方針や活動の状況などの情報を共有する事が難しくなっています。

ホームページや会報誌を通じて会員の皆様との情報共有を積極的に図っていきたいと考えています。

会報誌の編集方針は、会のポリシー、会の情報、会の活動計画などを、出来るだけ分かりやすく伝える事です。また、記事の作成では会員の多くの方に参加して頂き全員参加の会報誌としたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いします。



自然教室チームだより

5 月月例研修会

京都府立植物園自然観察会 実施報告

5 月 13 日(水)「植物の不思議や魅力を体験しよう！」をテーマに京都府立植物園の自然観察会を行いました。

前日が雨天の為、開催日を順延しましたが、それでも 21 人の方々が参集。2 班に分かれ



「京とおうみ」の藪内さんと八木さんの案内で、午前中は園内の 20 種近い「ウツギ」を観察し、午後は参加者の希望で、バラ園を中心に観察しました。

最初に京都植物園の 5 つの特色と「見る・さわる・におう」の三感での観察方法の説明があり、植物園の広さを体感する為に、園の外周近くまで歩きました。

京都植物園の 5 つの特色は以下のとおりです。

- ① 東大やマキノ植物園に匹敵する広大な広さ
- ② 樹木の種類 12,000 種
- ③ 名札がキッチリとついている。
- ④ 下枝を切っていないので、葉っぱや実を手にとって観察することができる。
- ⑤ 特殊な草木より、広く一般的な草木が多い。

今回のウツギの観察は、2 時間という短い時間でしたが、終わる頃には、「この辺りにウツギはありませんか」という講師の問いに、「あった！」とみんなが木を見つけることができるようになりました。ひとつずつ木肌を見て、葉っぱを触り、花の匂いを嗅いで、の繰り返しの観察で、その木の特徴を自然と覚えられました。「見る・さわる・におう」の三感の自然観察を今後も活用していきたいですね。(川口ゆみ子)

7 月の自然観察会

夏の里山を歩こう！

今年も御宮知伸彦さんに大和民俗公園近辺の植物観察を指導していただきます。楽しい自然観察会に、奮ってご参加ください。

1. 日時：7 月 1 日 (水) 9 時～14 時の予定

(サマータイムで実施しますが、終了時間が延びる可能性もあります。)

2. 集合：大和郡山市少年自然の家入口近辺

3. 持参するもの：食事、飲み物、雨具、筆記用具、あれば図鑑とルーペ

4. アクセス：奈良交通バス (72 系統) で矢田東山下車 徒歩 20 分

*近鉄郡山駅から JR 小泉駅東口行

…8 時 05 分、25 分 (乗車 12 分)

*JR 小泉駅東口から近鉄郡山駅行

…8 時 00 分、15 分 (乗車 17 分)

*車の場合は自然の家の前の駐車場、

または大和民俗公園駐車場を使用

(担当：倉田 0742-62-8460)

(オプション行事)

平城宮跡のイネ科植物観察会 (6/16)

自然教室チームでは年 6 回の自然観察会の他に、随時参加希望者を募って、オプション自然観察会を行っています。

昨年に引き続いて、イネ科植物観察会を次のとおり実施します。ご希望者は是非お越しください。きっとびっくりすることが多いでしょう。

1. 日時：6 月 16 日 (火) 10 時～12 時

2. 集合場所：奈良文化財研究所仮設庁舎前

3. テーマ：イネ科植物の「美しさ」を知ろう！

4. 持参するもの：図鑑、ルーペ

5. 雨天の取り扱い：会の取り決めによる。

6. 案内：佐藤 庄八、倉田 晃

なお、希望者があれば、昼食後も観察会を続けます。ご希望の方は昼食を持参ください。

鳥シリーズ 6月 都鳥とユリカモメのお話

小田久美子

「ミヤコドリ」は白黒の際立った体に、赤い嘴と目、脚(冬羽時には肌色)が印象的なカラス程の大きさの千鳥の仲間です。

この近くでは、三重の海辺で潮が引くと中洲や岩場などの休息場から飛んで来て、他の千鳥の仲間と採餌しています。



(ミヤコドリ)

一方、「ユリカモメ」は、カモメの仲間でこれも海岸性の鳥で、水面上から急降下して小魚などを獲ったり、死んだ魚や昆虫などなんでも OK、見た感じより悪食で群れをなして飛んでいます。



(ミヤコドリとユリカモメ)

在原業平は平安時代の貴公子ですが、後の清和天皇の後になる藤原高子^{たかいこ}をさらって逃げる絵にも残り、川柳に、「色事の 寸暇があると 歌を詠み」と詠まれる程の平安時代きってのプレイボーイです。

奈良に多くのゆかりを持つ人で、歌人でもあります。『伊勢物語』の主人公でもあります。『東下り』の中では、今の隅田川辺り迄来た時、*白き鳥の嘴と脚と赤き しぎの大きさなる 水の上に遊びつつ魚を食う鳥*を見て「あの鳥の名は?」と尋ねると、漁師は「**都鳥**です」と答えました。



(ユリカモメ)

都では見たことがありませんので、早速「名にし負はば いざ言問はむ都鳥 我が思ふ人は ありやなしやと」と詠んだ歌は有名です。

近年、京都鴨川で見られるユリカモメは風物詩のようになりましたが、海岸性のこの鳥は業平の頃にはいませんでした。

名前が混同されたのはこの頃からでしょうか。都鳥ということで「東京都の鳥」になっています。

昨年東京国博の「国宝展」に行き、亀戸天神辺りを歩きました。

スカイツリーの見える隅田川に出たら業平橋・言問橋もあり古が残っていました。

最寄り駅名は以前「業平橋」でしたが現在は、「とうきょうスカイツリー駅」になりました。

(写真撮影：山縣)

やさしい病害虫講座 14 テントウムシダマシが横綱

木村 裕

害虫や病菌が張り切って活躍するシーズンになってきましたので、家庭菜園にポイントをおいて野菜、花、植木などの主な病害虫について順次まとめて行きたいと思います。

家庭菜園の入門に当たるナスの栽培は灌水と茎の誘引と害虫によって支えられています？

ならやまのナスクラブのメンバーの頭を最も悩ませているのがテントウムシダマシ（本名：ニジュウヤホシテントウ）でしょう。しかし去年はほとんど被害をださず上手に栽培されておられ、驚きでした。

この虫はナス科の植物しか食べません。典型的な偏食家です。主としてナス、ジャガイモ、ホオズキ、ダチュラ（エンゼルトランペット）、野草のイヌホオズキですが、ときどき血迷ってキュウリの葉をかじります。

食事マナーが独特で、体をずらすようにして葉の片面を浅く齧りとりまします。そのため、被害を受けた部分には石段状の傷が残ります。その部分の組織が死ぬことにより褐色になります。また果実も大好きで、表面を齧るだけで果皮が裂けてパンクしますので被害甚大です。

成虫はテントウムシそのもので、黒くて丸い模様を散らした赤褐色の衣装をつけています。手で触ると嫌な匂いのする黄色の汁を出し、それに驚いている間にスタコラサッサと逃げてゆきます。幼虫は黄白色の柔らかい虫ですが、体全体が黒い棘で包まれていますので、触ると危ないという感じを持たせますが、触ってもまったく痛くも痒くもありません。見つけ次第ひねりつぶしましょう。



4 月になると、石

垣の隙間などで冬越しをした成虫が腹を減らして食べ物を探しまわります。その一番の御食事処

はジャガイモ畑です。美味しそうな葉をみると涎をたらして集まってきて宴会を始めます。このときに捕まえてしまえばナスへの引越しがかなり回避されます。

つぎに厄介な虫は夏に発生するチャノホコリダニです。名前の通り、埃のような小さなダニで肉眼では見つけることはできません。この虫は新芽の隙間や新葉の裏にとりつき、貴重な栄養分を吸いとりまします。多発すると1枚の葉に数百匹の虫がつき、食事、嫁さん探しと走り回っています。

被害を受けた新芽は堅くなって新しい葉が伸



びだしません。新葉も堅くなって変形し、裂けて小さな孔もあきます。葉の裏は茶色に変色し、ピカピカと光沢も生じます。勢いよく成長していた株がなんとなく成長がにぶくなり、最後には成長が完全にとまります。早めの薬剤散布が基本で、他に有効な対策はありません。

春～夏に葉の裏に小さな虫が行列を作っておればアブラムシさん一家です。見つけ次第指でおしつぶしましょう。アブラムシ算で一気に増えますので1週間もすると葉は虫で占領されますので、残業をしてもその日に退治しましょう。

5～6月にはヨトウムシの子供さんが葉にポツポツ孔をあけて食い荒らしますので、被害に気づいたら葉の裏を調べて青虫を捕まえましょう。

病気で恐ろしいのは土壌中に潜んで株全体を枯らす土壌病害です。発生してからの対応策はありませんので、栽培場所を毎年変えるのがもっとも優れた予防対策です。



隠れ古社寺 ひとり旅 ⑬

歴史文化クラブ
川井秀夫

稲倉神社・住吉神社

大阪から奈良に移住してかれこれ半世紀の年月が過ぎる。色々な活動媒体を通し県下の名所、寺社仏閣、文化施設など殆どカバーしてきた積りだったが、足元の生駒市の領域に古代に纏わる遺跡が眠り、古い縁起の寺社が残されているのに驚いている。今回も磐座に神が降臨したと言う痕跡を探訪目的で、G・W明けの某日、ぶらりと歩いて見た。

稲倉神社（稲蔵とも）

生駒市の中心部・小明町にある。東生駒から北へあすか野へ抜ける通称清滝街道を走るバス路線に乗り15分、稲倉駅下車。街道沿いに朱塗りの一の鳥居が目に入る。

300米ほど緩やかな参道を二の鳥居、三の鳥居と進むと本殿に突き当たる。気が付けば周囲は鬱蒼とした森の中、矢田丘陵の北端、「稲倉の森」と言う。

参道を歩いてどんな大社かと思っていたが、本殿



は一間社の佇まい、周囲には代々の明神を刻した石塔が並び立つ。本殿横に高さ六米・周囲12米の烏帽子形の巨石が鎮座する。

饒速日命（ニギハヤヒノミコト）が河内に天降った際、生魂（イクムスビ）・大宮能御膳神（オオミヤノメミツケノカミ）二柱がこの烏帽子石に宿ったと言う。



烏帽子型の巨石

裏山に登って見た。段々に大きなため池が現れ、古代から灌漑用水の貯水地であった様だ。稲倉の名称からして穀倉の地でもあったろうか。

帰り際、参拝の

老夫婦が灯明を点け、社地を清める仕草を見て、地元の鎮守として畏敬の神の存在感を感じる。

ここは、神話にある「いかるが三十六峰」の一つとして名があるが、老樹の中にと神霊が現れる様な、そんな畏怖を体感する雰囲気であった。

住吉神社

清滝街道に戻り北へ、南田原町に入る。街道脇に道路に分断された様に、西に大きな石灯籠、東に短い参道越しに本殿を見る。創始は奈良時代と縁起にあるが、社殿は1823年の創建、狛犬・灯籠など新しく、社務所もあって稲倉神社とは対照的。祭神は大阪・住吉の末社と有り、主神は同じ表筒男神（ウ



ワツツノ
オノカミ）
を祀る。

今日の
目的の一
つに、古代
信仰の「岩

蔵寺」を目指し、巨岩の磨崖仏・不動石仏、行者石仏を見たかったが、手元の地図の精度が悪く所在が確認できず、後日に譲る事にした。

葱坊主こくりと揺るる昼下り

八木 順一

春日中の眠気は堪らなく良い心地だ。人間が無になる一瞬。葱坊主に見立てたのがお手柄。春は長閑ですなア。

もくもくと蜜柑の花の大噴火

八木 順一

作者の庭に蜜柑の花が盛り。どこかの噴火騒ぎと異なり壮観。秋の収穫が約束されてご満悦、ちよつと誇張が過ぎたかな。

とみびこ

登美毘古の郷なり雄々し鯉幟

古川 祐司

二句一章仕立て。登美毘古は登美の豪族ナガスネヒコのこと。古代史ファンには注目の一句。豪族と鯉幟のミラクルマッチ。

さりげなく往く人おくる余花の雨

古川 祐司

余花は若葉の中に咲き残るサクラを言う。惜春の思いを抱く。往還の人々に、わが想いを重ねる。雨が情感をそそる。

村なかに健児の証し鯉のぼり

鈴木 末一

日本の風物詩。邪気を祓い男の子の成長を願う鯉幟。幟が街を埋めれば少子化も解消するのだが・・・。

くだ

ハンドルも迷ふ卯の花腐しかな

鈴木 末一

「卯の花腐し」は花を腐らせる程に降る雨のこと。季語。花に見とれて、雨中の運転はご注意召され・・・。

千年藤の香り届けと病む父に

青木 幸子

作者は故郷の病む老父を気遣う。播磨路の藤の古木に思いを寄せて、親子の情愛が表出された佳句。



俳句百景

監修 川井秀夫

花疲れ女子学生の大あくび

西谷 範子

何処かの四阿のひとこまか。現代っ娘は羞恥を忘れて大胆に。花見の後のお疲れ、欠伸は生理現象、可愛いいいじゃないですか。

藻の花の流れタナゴの影光る

羽尻 嵩

なら山池の飼育も大変。初夏の日差しに藻が揺れて敏捷な泳ぎ、「影光る」の措辞が新鮮で一句を締める。ジリさん頑張れ！。

けらく

春雨や花粉少なに眼の快樂

坂東 久須 (俳号)

花粉症にはご同情。嫌晴賛雨ですかな。暫くのご辛抱。新編集長就任おめでとう。お目目は命、お大事に。

夏めくや庭の草木も躍りたり

坂東 久須

今年の春は駆け足。躍動の草木の手入れに大わらわ。草の手入れは里山だけではないわいな。

囀りや朝一番の鼓笛隊

阿部 和生

「囀り」春の季語。朝まだき小鳥の声がかしましい。ピーピーヒャララピーヒャララ。さあ一日の始まりだ。

ひまわり蒔く荒れ野の土に一願す

阿部和生

第五の土壤改良策。この瘦地の良薬になるか。祈るや切。阿部さん、志あれば自然の力は答を出して呉れますぞ。

茄子苗のさやさや風と戯るる

川井 秀夫

六年目の挑戦。今年は水ナスの新種を混え148本植苗。成るか、為さぬか、ナスさん 頼んまつせ。

癒しの散歩道

谷川 萬太郎



春 時 雨

俄に降り出した雨に笑顔が美しい 庭先の額紫陽花が春の衣装を纏い
霧雨が濡れる若葉に囁くように 季節の花の蕾をそっと優しく包む
なのに人の心を弄ぶ恨めしき雨よ 暖かな日和を何処へ隠匿したのか
雨雲の渦中に消えた5月の青空よ 泣きべそかいた私の心も知らずに

眼が覚めて窓辺は緑鮮やかだ 傘もなく雨に汚れた靴の思い出は遠い過去
あの濡れた服の冷たさも忘れさせた 眩しい春の光が虹のように拡がる
暖かな春を探しに片田舎を訪ね 畦道で蓮華草に出会い森で鶯が春の歌を
春時雨よ誰も君を恨みはしない お蔭で5月の花も命の息吹を授かるから

ならやま茶論

「どちらがギャング」

竹本 雅昭



カエル：何しまんねん、美味しそうなんを狙ってたのに、ほんまにどもしゃあないなあ。

翁：こりゃあすまんことしたな。

ところでお前さんトノサマガエルと似た色しとるがえらい大きいな、名は何と申す。

カエル：へっ、あっしはウシガエルと言いまして大人のとてのひら位はありますやろ。

翁：ほな、”ブオーン “ ”ブオーン “と鳴いてるあの声がそうかいな。

カエル：そうですそうです。目に付くものは何でも食べまっさかいでつかくなりまんねん。

翁：いつからこの東池に住んでんねん。ここにはいろんなヤゴやこれから殖やそうと思ってる
ドジョウもおるし、お前は農にとっては敵やで。

カエル：そんなこと言われても好きなもんは見逃す訳には行きまへんさかいな。元はと言えばでっ
せ、先祖が米国からお宅らの食用として 1913 年に輸入されて、餌としてアメリカザリガニ
も一緒に来ましたんです。

翁：えらい奴が来たもんや、他のカエルや水生昆虫もみな胃袋へ入れるんやな。

つまり水辺のギャングか、ゆるせん断じて。そうかそうやったら・・・フッフッ。

カエル：おや旦那の目付きがへんやで、危い危いそっちこそギャングやおまへんか。

さいなら。・・・・・・ドッポーン

～ 終 ～

Gallery **ならやま**



油絵 (永井 幸次) 「登山」・墨彩画 (羽尻 嵩) 「雨模様」・水彩画 (鈴木 末一) 「参道」
水彩画 (八木 順一) 「阿倍野ハルカスから」・陶芸 (小島 武雄) 「ご飯待ち！」



「登山」永井 幸次



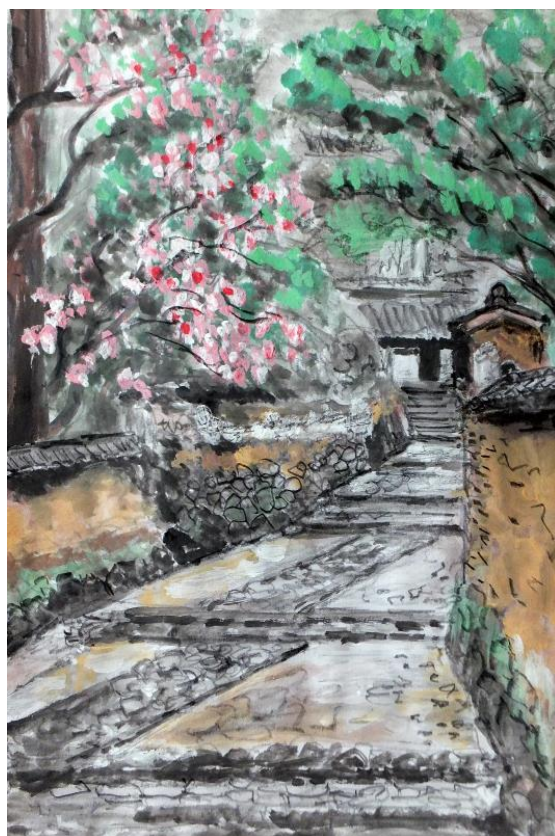
「雨模様」羽尻 嵩



「阿倍野ハルカスから」八木 順一



「ご飯待ち！」小島 武雄



「参道」鈴木 末一

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

6月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)
7月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き (平日)
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



- ◆ 連絡先：木村 裕 0742-46-4956

6月4日

<里山 Gr>

「里山林」コナラ（レベル2）伐採 倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr>

田植え実習（午前北側水田）（佐保台小5年生）

6/5 予備日 田植え実習

田植え会員（午後南側水田）

<景観 Gr>

ベースキャンプ周辺草刈り

池の整備、麦刈り取り、夏花移植、デージー撤去

6月11日

<里山 Gr>

「里山林」コナラ（レベル2）伐採 倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr>

茄子・唐辛子・トマト・ゴーヤ支柱立て 肥料

<景観 Gr>

彩の森草刈り、ならやま池水生生物調査、池の整備、金盞花撤去、ドイツアヤメ草引き・整理

6月18日

<里山 Gr>

「里山林」コナラ（レベル2）伐採 椎茸櫛木天
地返し 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr>

南瓜・西瓜・蔓の整理 肥料

<景観 Gr>

第5地区草刈り 池の整備、夏花施肥、山野草園
草引き、柵作り

6月25日

<里山 Gr>

「里山林」コナラ（レベル2）伐採 倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr>

玉葱・じゃがいも・ニンニク収穫 耕耘

<景観 Gr>

佐保自然の森草刈り ならやま池水生生物調査、
池の整備、コスモス種まき、菊移植、草引きなど。

※パトロール班・・・※パトロール班…観察路
の笹刈り、丸太階段補修





行事案内 part 1

6月 月例研修会 「当麻寺」と二上山の麓を巡る

二上山の雄姿が見えかくれするその麓には、「当麻寺」を始め多くの史跡があります。

・浄土宗と真言宗の両宗派で護持されている「当麻寺」の境内には、いくつもの塔頭が立ち並んでいます。本堂・東塔・西塔や弥勒仏坐像・四天王寺像など多数の寺院、仏像は国宝、重要文化財です。特に今回は、「当麻寺」の中核塔頭寺院で、中将姫ゆかりの「護念院」で国・無形民俗文化財に指定されている「練供養会式」（毎年五月十四日、中将姫の命日に二十五菩薩来迎図を表した行事で、「面かつぎ」の名で親しまれる。）のいわれを詳しくお聞きします。

・また万葉集にも歌われる悲劇のプリンス 大津皇子の実際のお墓の可能性があると云われる「鳥谷口古墳」、関西花の寺二十五霊場の二十番札所「石光寺」、国技相撲の発祥の地と云われる「当麻の里」の「当麻蹴速塚」や相撲館「けはや座」なども訪ねます。

・「歴史文化クラブ」との共催の緑の中の歴史文化探訪です。多くの方のご参加をお待ちしています。



- 1.実施日；6月8日（月）
- 2.コース；当麻寺—護念院—鳥谷口古墳—当麻山口神社—傘堂—二上山ふるさと公園—石光寺—当麻蹴速塚—相撲館「けはや座」
- 3.集合；近鉄南大阪線「当麻寺駅」前 9：30
- 4.交通；大和西大寺8：21—8：48 橿原神宮前8：55—9：14 当麻寺
- 5.担当者；弓場厚次 杉本 登 寺田 孝

7月 月例研修会 予告 清涼の「みたらい溪谷」を歩く

「みたらい溪谷」は、大峰山系から流れ出たエメラルドグリーンの水と巨岩・奇岩がおりなす溪谷です。緑の木々、岩つつじ、滝が美しい。平地の約7キロの遊歩道歩きです。終点の名湯「洞川温泉」も楽しみなコースです。



- 1.実施日；7月21日（火）
- 2.コース；近鉄下市口駅前—バス—天川川合—みたらい遊歩道入口—観音峰橋—洞川温泉
- 3.集合；近鉄吉野線「下市口駅」前 9：10
- 4.担当；木村 裕 富井忠雄

7月 歴文研修会 予告 五条市の藤岡家住宅家見学と古事記探訪

藤岡家は、江戸時代から続いた庄屋で、1832年に建てられた住宅は登録有形文化財。家宝の数々が公開されています。3代前の当主の藤岡玉骨は、佐賀、和歌山、熊本県の知事を歴任の傍ら、高浜虚子に師事し「大和の大桜」と讃えられた俳人。南方熊楠、森鷗外、夏目漱石、与謝野鉄幹との交友があり、当日は「南方熊楠からの手紙展」が開かれます。午後は、同保存会「うちのの館」の館長で童話作家・エッセイストの川本様のご案内で、五條に残る古事記伝承の地を訪ねます。

- ・日時：7月14日（火）8：30出発
- ・マイクロバス定員27名（事前申込）
- ・申込先：歴文事務局 古川祐司まで

Eメール：rekibun@naranature.com
Fax：0742-44-8621





行事案内 part2

春の感謝祭（じゃがいも祭り）

6月25日（木）12時～13時予定

ならやまベースキャンプにおいて、エコファームGと女性を中心となり、春の感謝祭（ジャガイモ祭り）を行います。ならやまで収穫しました、



じゃがいも、人参、玉葱など新鮮な野菜たっぷりのカレーライスを会員の皆様に提供します。

今回、お米は飯盒で炊く予定です。スタッフ一同、皆様のご参加をお待ちしています。（雨天中止の場合7月2日（水））

※ カレー皿・スプーンをご持参ください。

富井 忠雄

奈良学 クイズ

問】3人の人達は、いずれも奈良に深い関わりがあります。お名前をお答えください。

(1)



(2)



(3)



【締切】6月1日（月）

【応募方法】メール

【景品】旬菜 or クラフト

【5月号答】

① 北浦定政

② 関野 貞

③ 喜田貞吉

E-mail nara-suzuki@naranature.com

旬菜旬食



ならやまエコファーム今月は、夏場に好評の男の料理、冷汁です



◆材料（4人分）

出し汁4カップ・氷2カップ

鰯干物2枚・麦みそ大匙2・すりごま大匙4

薬味・胡瓜1本・青ネギ1本・生姜小1片

茗荷2本・その他（茄子・玉ねぎ等）

◆作り方・・・鰯の干物は焼いて身だけをほぐしすり鉢で粗く摺る。胡瓜は小口切り少量の塩で揉み水洗いしておく。他の野菜は細かく刻む。出し汁に麦みそを溶かし材料全部混ぜ合わせ最後に氷とすり胡麻を入れて出来上がり。

*だし汁は、煮干しを40分位煮出した後

かつをを加えザルで漉すと美味しい出し汁が出来上がるが面倒なときは市販の出汁の素を使っても良い。

2年前阿部さんから、今まで女性に毎週豚汁を作って貰っているが月に一回でも男性で担当出来ないだろうかと相談を受け「大丈夫やれますよ」と両手を挙げて賛成調理班を募集現在に至ってる。野外料理で一番気を使うのは集団食中毒である。食事前の手洗いもままならない状態でO157の感染が恐ろしい。ベースキャンプには鳥の糞が至る所に落ちている。鳥インフルエンザも恐ろしい。これから盛夏に向けて冷や汁の提供を提案し実施の予定だが、冷や汁は豚汁と違って火を通さない。野菜類はすべて生食である。中毒を防ぐ手立ては短時間での調理と速やかな食事時間です。まな板、包丁は塩素消毒している。「閑話休題」若し集団中毒が起されば私の責任です。皆さん手洗いと速やかな食事のご協力をお願いいたします。 池田敬二郎

平成27年・5月度幹事会報告

◆日 時:平成27年4月21日(火)17:00~20:30

◆場 所：奈良市中部公民館

◆案件：

I 会長挨拶

- ・総会準備の幹事会、審議を宜しく願います。
- ・幹事3名退任予定にて候補3名が幹事会参加。

II 報告事項

①会員動向：149名（前月より変わらず）

②月例研修会、イベント等の活動報告：

- ・4/8 月例研修会「春季ハイキング」に 14 名参加。
- ・4/14 歴史研修「長岡京跡から御室仁和寺」実施。
- ・4/19 ならヨープ「アース・デー」自然工作参加。

III 檢討事項

①第 14 回通常総会について：

- ・事務局より議案書につき説明があり審議。
- ・会計担当、事務局より決算案の内容説明があり、監査役より承認を得た旨の報告がなされた。
- ・林野庁交付金関連で金銭出納簿は総会の承認を必要とする為、総会議案に入れた。

- ・事務局より予算案と一部修正説明がなされた。
- ・事務局より総会実施要領の説明があり、分担を確認した。1,000 円/人の懇親会参加者補助決定。

②経団連よりの助成事業について

- ・阿部顧問より、計画内容並びに経緯説明があり、作業を減らし強間伐にて進める案が示された。
- ・それに対し作業量の多さ、期待される効果が不明、奈良県・奈良市の承認が取れるのかといった疑問・不安が指摘され議論が重ねられた。

- ・その後も結論が出ず、会長より更に検討してから結論を出したいとの意向が示され承認された。

③7/20「森林体験山もり・てんこ森」参加決定

④ネイチャーなら6月号について内容説明後、

6月号より編集長交代の報告があった。

IV 確認事項

- ・5/12 月例研修会「京都府立植物園自然観察」
- ・5/3～5 天平祭参加、鯉のぼりとブンブンゴマ
- ・5～7 月のスケジュール表の日程を確認した。
- ・6/2 6 月度幹事会、中部公民館にて開催予定

以上

たかが3年、されど3年

前編集長・鈴木 末一

平成24年(2012)4月、勝田均様から「ネイチャーなら」編集担当のバトンを受け継ぎ、4名でチームを編成しスタートして以来、早くも3年の歳月が経過しました。年々メンバーも増え、坂東さん、青木さん、足立さん、井戸さん、辻本さん、山中さんたち同志に恵まれ支えていただきました。新しく佐藤さん、山崎さん、廣田さんをお迎えすることになりました。

幸いにも素晴らしい才能と実行力を兼ね備えた同志・坂東（バンキュウ）さんに、後顧の憂いなく引き継ぐことができました。アイデア溢れる新誌面がお手元に届くものと大いに期待しています。どうか新編集長さんに倍旧のご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

「たかが3年、されど3年」、本当にお世話になりました。誠に措辞ではありますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。



◆第5代目の編集長を拝命しました。会の情報発信の要としてお役に立てればと願っています。

当会が何を指して、何をしようとしているのかを情報として共有し、日々の活動に活かせることが出来るように、HPや会報誌を編集したいと考えています。

皆様のご協力をお願いします。（行行子）

会報誌[ネイチャーなら]・第161号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤 田 秀 憲

<http://www.naranature.com>

編集チーム代表：坂東久平